

桃山学院大学 社会学部主催 社会福祉学科公開フォーラム

わたしたちは “社会的孤立” にどう挑むのか!?

—地域福祉からのアプローチ—

「誰にも看取られず、ひとり寂しく亡くなる」という痛ましい“孤立死”が後を絶ちません。しかも、“老々介護”の世帯や息子・娘が親の介護をしているような世帯、あるいは親が障害のある子どもを扶養しているような世帯などで“家族ごと孤立死”するようなケースも頻発しています。こうした孤立死の背景には、単身世帯の増加、雇用の不安定化、貧困化の進展、コミュニティの希薄化、あるいは社会保障制度からの排除（制度の利用資格がない・申請できない）など複雑な要因が重なりあっているという状況があります。それだけに年齢や場所を問わず、いつでもどこでも、誰にでも生じ得る問題だといえます。

現代社会は諸々のリスクが個人化され、社会的な問題があたかも個人的な問題かのように受けとめられる傾向がありますが、孤立死は“社会的孤立”の問題であり、“社会的排除”の問題として捉え直す必要があります。

地域福祉の現場では、個別の相談に応じながら社会的な「つながり」づくりの支援が行われていたり、地域でのサロンづくりなどを通じて社会参加の機会や「居場所」づくりの活動が行われていたりします。また、東日本大震災以降の被災地における仮設住宅においても孤立（死）防止に向けた活動が展開されています。

今回の社会福祉学科公開フォーラムでは、社会的孤立に対する地域福祉の実践を検証しながら、これからの地域福祉のあり方について議論します。

日 時：2013年2月1日（金）13：20 ～ 15：30

（開場・受付開始 12：30～）

場 所：桃山学院大学 2号館 3階（2-301）ハイビジョンシアター

プログラム： <パネルディスカッション>

申し込み不要。どなたでも自由に参加できます。

■コミュニティソーシャルワーク事業における“つながり”づくりの取り組み

—堺市における「地域福祉ねっとワーカー」による相談支援の実践を通じて—

宮崎 浩二（堺市社会福祉協議会 地域福祉ねっとワーカー）

■サロン活動と福祉共育を通じた“社会的包摂”を目指した取り組み

—岬町における社会福祉協議会によるコミュニティづくりの実践を通じて—

亀崎 泰広（岬町社会福祉協議会 コミュニティワーカー）

立花 直樹（岬町社会福祉協議会 事務局長）

■被災地における“孤立（死）防止”の取り組み

—阪神淡路から東日本へと継承された被災者・被災地支援の実践を通じて—

川井太加子（本学社会学部社会福祉学科 教授）

コーディネーター 松端 克文（本学社会学部社会福祉学科 教授）



問い合わせ先：学校法人桃山学院大学 入試広報課

〒594-1198 和泉市まなび野1-1

TEL 0725-54-3131（代）FAX 0725-54-3203

E-mail koho09@andrew.ac.jp

桃山学院大学までのアクセス



「和泉中央駅」から徒歩で約12分

桃学大は協奏力。

グローバル社会を生き抜くには、競争力が必要です。

しかし、

競うだけではなく、

集団の中で自分の役割を見つけ出し、

お互いの個性を尊重しながら

協働できる力、

つまり「協奏力」も大切です。

自分の特長を伸ばせる

多彩なプログラム

|| 「世界が変わる体験」を通じて

「協奏力」を身につける。

4年後、どんな場所でも

活躍できる力をつけたあなたがいます。

世界が変わる
体験がある。